

## 「熊本調査士会 総務・企画・公共事業部合同研修会」参加報告

(測量法の一部改正に伴う諸問題、及びGPS導入に関する研修会)

総務部 城戸崎 修

平成16年3月27日(土)午前10時～16時30分 熊本県立劇場にて行なわれた標記の研修会に参加したので報告する。

この研修会の主旨は、測量法の一部改正に伴う諸問題の中でも民事二課長 通知(平成15年12月9日 第3641号)の解説、及び実際の取扱いにおけるパラメーター変換(TKY2JGD)による測地成果2000への座標変換の問題点を具体的に提示するためのものである。

また、会員へ調査士が日々の業務により作製した資料から常に新しい地図を作り、統一のデータベース上に置き換えるための登記基準点設置や、成果の品質管理などの実現を目指し、熊本県会としての測地成果2000への対応策を模索するものであった。

まずは冒頭に、熊本会 西 龍一郎氏の会長挨拶を頂いた。

急速な変革の時代に我々土地家屋調査士が行なわねばならぬ対応策として、時代を読み取る能力を身につけること。その一つとして、本日の研修内容がある。平成地籍整備、ADR整備等の荒波が押寄せる中まずは最低限の知識を身につける学習癖を日々念頭に置き、業務を行なう事が大事である。云われるがままの業務遂行では将来は無い。一歩進んだくらいが今の時代はちょうど良いと述べていた。

具体的には、我々調査士の手で管理できる登記基準点の必要性、広範高密度の基準点の設置が好ましいとまで述べていたのには安心した。

次に熊本地方法務局 不動産登記部門 表示登記専門官により二課長通知の解説を頂いた。本件については、既に法務省と日本土地家屋調査士連合会と協議済みである旨冒頭に申し添えられた。?

簡単に感想を述べると、現場の取扱いについてはまだ周知徹底が成されておらず、e-Japan構想における対応の先行策ではないかと思えた。

いずれにしても熊本会員の多数の質問にもあったが、安易な変換データによる地図の歪みは阻止しなければならず、TKY2JGDの使用はなるべく行なわず、真の測地成果2000による地積測量図を作製する努力を行なわねばと痛感した。

第二部は熊本におけるパラメーター変換(TKY2JGD 変換)による測地成果2000への座標変換の問題点についてであった。前述の熊本会員の質問による内容がそのまま 元国土交通省 国土地理院 研究官中根 勝見氏により解説された。

TKY2JGD 変換数値と測地成果2000数値とは熊本においては10数センチの差異がある。新設基準点と変換数値基準点の混同には、混乱を招く危険性があるとの事。出きる限りパラメータ変換は行なわず新規の基準点設置を行なう事が望ましい。地理院も実際は再測による新成果値に書き換えを行なっている。

パラメータ変換は法改正の為の……と述べていたが、とても文章としては残せない。

第三部は GPS メーカー「ライカ社」による GPS 使用方等に関する内容であった。かなりの嘘を平然と述べていたが、これは GPS 測量がいかに簡単で誰でも出来る事へのアピールであったと解釈して、記述はこの位で止めておく。

最後に熊本会の公共事業部長 前田 千秋氏による県会としての測地成果 2000 への対応と題して会員へ熱く対応の必要性を説いていた。

ちなみに熊本会の方針は、VRS-RTK-GPS 対応の二周波 GPS 機器を会にて 12 台購入する予定である。各支部へ装備し測地成果 2000 への対応を即行なえるようにとの先行投資、所謂生き残り策の実践であるとも述べていた。

閉会の辞のなかで、本日の研修会の内容は非常に難解であったがこれが今の時代である。分からないでは取り残される。益々勉学に勤めなければならないと述べていた事にも共感を得た。

以上簡単であるが、報告とする。